松本市の景気動向

― 中小企業景気動向基本調査 ―

【平成２７年１２月】

■**調　査　概　要**（データ対象期間：平成２７年１２月１日～１２月３１日）

○調査期間：平成２８年１月５日～１月２２日

○調査対象：市内中小企業２００企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業２５企業、製造業１９企業、卸売業１４企業、小売業３２企業
飲食業１６企業、サービス４６企業（運輸、不動産仲介業を含む）
＜合計１５２企業＞

○調査項目：**１２月**の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう３ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)ＤＩ(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※DI＝(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概　況

業況ＤＩ・水準ＤＩともにマイナス幅が縮小

１．業況判断

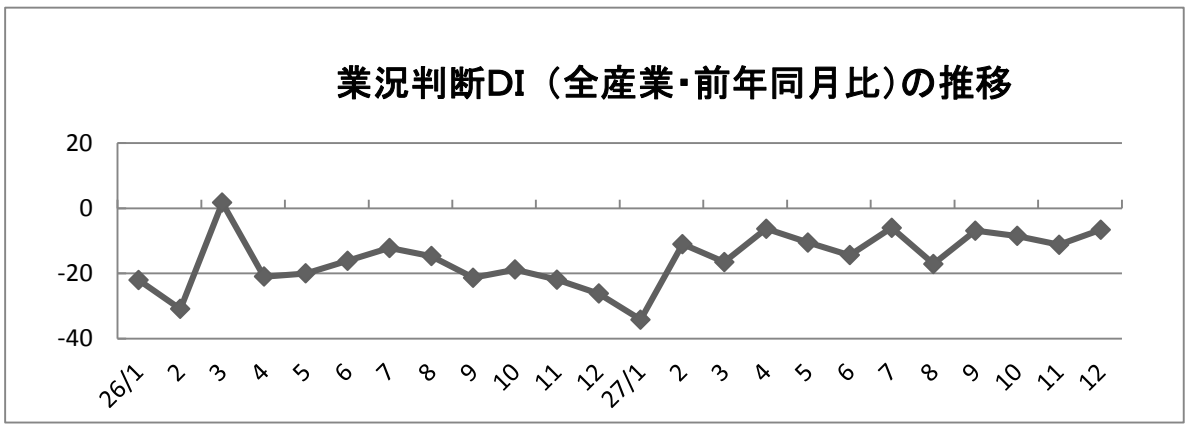
○全産業合計の業況ＤＩ（前年同月比ベース）は、前月（▲11.2）よりマイナス幅が 4.6 ポイント縮小し、▲6.6 となった。業種別では、サービス業はマイナスからプラスに転じ、建設業、飲食業、小売業はマイナス幅が縮小した。製造業はプラスから 0 となった。卸売業はマイナス幅が拡大した。

○全産業合計の水準ＤＩは、前月（▲16.4）よりマイナス幅が 1.9 ポイント縮小し、▲14.5 となった。業種別では、サービス業、飲食業はマイナスからプラスに転じた。小売業はマイナス幅が縮小し、製造業はプラスからマイナスに転じた。建設業、卸売業はマイナス幅が拡大した。

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	14.5 (13.8)	64.4 (61.2)	21.1 (25.0)	↗ ▲ 6.6 (▲ 11.2)	15.8 (12.5)	53.9 (58.6)	30.3 (28.9)	↗ ▲ 14.5 (▲ 16.4)
建設業	4.0 (0.0)	80.0 (79.2)	16.0 (20.8)	↗ ▲ 12.0 (▲ 20.8)	0.0 (4.2)	60.0 (66.6)	40.0 (29.2)	↘ ▲ 40.0 (▲ 25.0)
製造業	15.8 (35.0)	68.4 (60.0)	15.8 (5.0)	↘ 0.0 (30.0)	15.8 (30.0)	63.1 (65.0)	21.1 (5.0)	↘ ▲ 5.3 (25.0)
卸売業	7.1 (12.5)	71.5 (68.7)	21.4 (18.8)	↘ ▲ 14.3 (▲ 6.3)	7.1 (12.5)	42.9 (56.2)	50.0 (31.3)	↘ ▲ 42.9 (▲ 18.8)
小売業	18.8 (13.9)	49.9 (47.2)	31.3 (38.9)	↗ ▲ 12.5 (▲ 25.0)	21.9 (11.1)	34.3 (50.0)	43.8 (38.9)	↗ ▲ 21.9 (▲ 27.8)
飲食業	6.3 (7.1)	68.7 (57.2)	25.0 (35.7)	↗ ▲ 18.7 (▲ 28.6)	25.0 (7.1)	56.2 (64.3)	18.8 (28.6)	↗ 6.2 (▲ 21.5)
サービス業	21.7 (14.3)	60.9 (61.9)	17.4 (23.8)	↗ 4.3 (▲ 9.5)	19.6 (11.9)	63.0 (57.1)	17.4 (31.0)	↗ 2.2 (▲ 19.1)

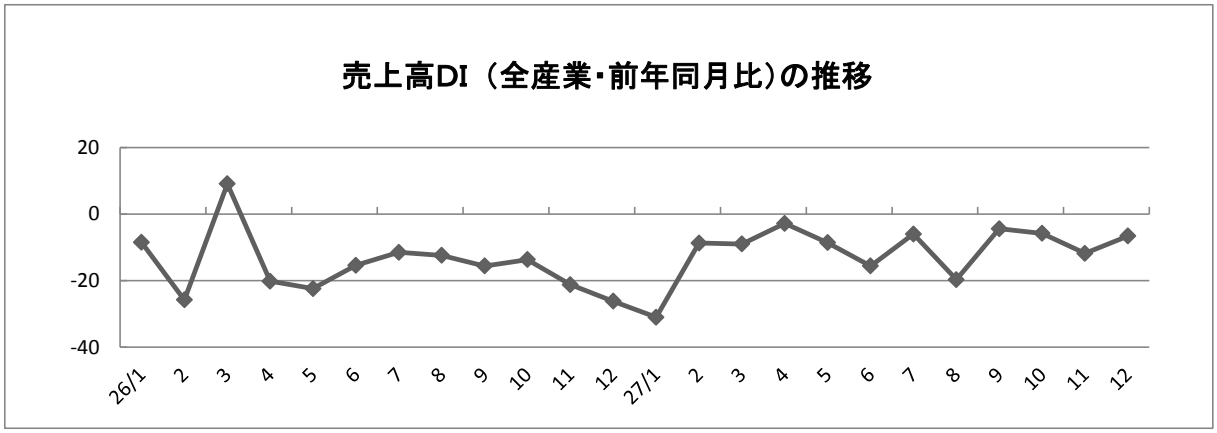
（　）内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今　月　の　水　準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2．売上高ＤＩ（前年同月比）

○全産業合計の売上高ＤＩは、前月（▲11.8）よりマイナス幅が 5.2 ポイント縮小し、▲6.6 となった。業種別に見ると、サービス業はマイナスからプラスに転じた。製造業はプラスから 0 となった。建設業、小売業、飲食業はマイナス幅が減少した。卸売業はマイナス幅が拡大した。

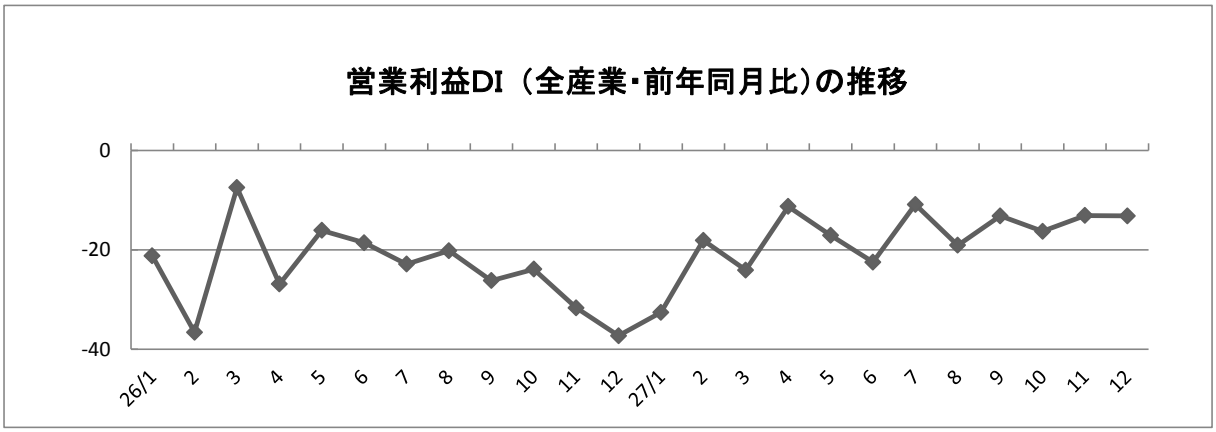


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
全　体	▲ 26.2	▲ 31.0	▲ 8.7	▲ 9.0	▲ 2.8	▲ 8.6	▲ 15.6	▲ 6.0	▲ 19.7	▲ 4.4	▲ 5.8	▲ 11.8	▲ 6.6	↗
建設業	▲ 17.7	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 6.2	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 30.4	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 4.0	▲ 20.9	▲ 16.0	↗
製造業	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 13.0	▲ 25.0	5.0	0.0	▲ 13.7	15.0	0.0	8.3	▲ 40.0	35.0	0.0	→
卸売業	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 26.7	0.0	▲ 25.0	▲ 18.8	▲ 11.7	▲ 11.8	5.9	▲ 6.6	▲ 18.7	▲ 21.5	→
小売業	▲ 50.0	▲ 48.3	▲ 11.5	▲ 16.6	▲ 21.2	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 15.1	▲ 18.1	▲ 25.0	▲ 12.5	↗
飲食業	0.0	▲ 22.2	27.3	8.3	▲ 8.4	6.7	▲ 7.1	▲ 12.5	▲ 11.1	0.0	7.2	▲ 28.6	▲ 6.2	↗
サービス業	▲ 24.3	▲ 19.5	▲ 5.7	5.0	14.7	0.0	▲ 10.6	10.0	▲ 20.4	2.2	13.1	▲ 9.5	4.3	↗

3．営業利益ＤＩ（前年同月比）

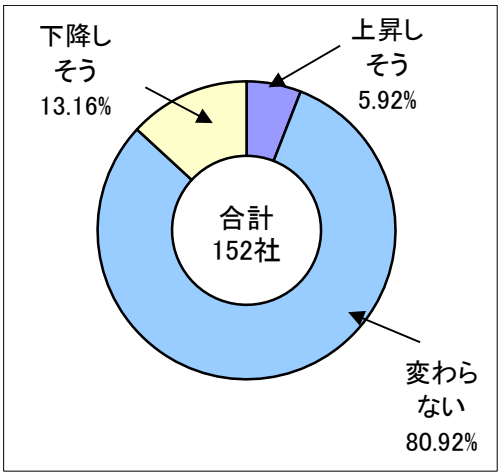
○全産業合計の営業利益ＤＩは、前月（▲13.1）よりマイナス幅が 0.1 ポイント拡大し、▲13.2 となった。業種別に見ると、飲食業、サービス業、小売業はマイナス幅が縮小した。卸売業は 0 からマイナスになり、製造業はプラスからマイナスに転じた。建設業はマイナス幅が拡大した。

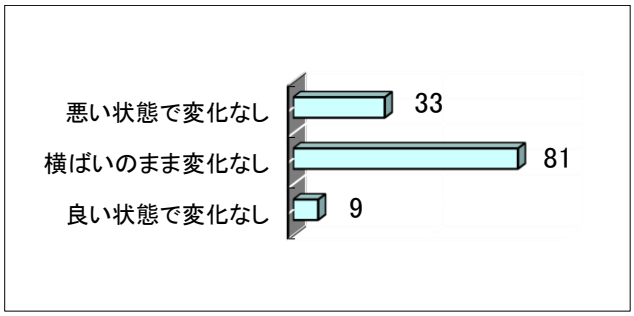


【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
全　体	▲ 37.3	▲ 32.6	▲ 18.1	▲ 24.1	▲ 11.3	▲ 17.1	▲ 22.5	▲ 10.9	▲ 19.1	▲ 13.2	▲ 16.3	▲ 13.1	▲ 13.2	→
建設業	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 39.2	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 36.0	▲ 20.8	▲ 32.0	→
製造業	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 26.1	▲ 45.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 31.9	15.0	▲ 17.4	0.0	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3	→
卸売業	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.3	5.8	▲ 11.8	17.6	0.0	0.0	▲ 14.3	→
小売業	▲ 41.7	▲ 34.5	▲ 19.3	▲ 30.0	▲ 39.4	▲ 17.1	▲ 29.7	▲ 20.5	▲ 19.4	▲ 24.2	▲ 42.4	▲ 30.6	▲ 9.4	↗
飲食業	▲ 36.4	▲ 33.3	27.3	0.0	▲ 16.7	▲ 6.7	▲ 7.1	▲ 31.2	▲ 11.1	▲ 11.8	0.0	▲ 28.6	▲ 25.0	↗
サービス業	▲ 29.7	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 10.0	14.6	▲ 6.1	▲ 17.1	0.0	▲ 18.1	▲ 13.7	8.7	▲ 9.5	▲ 4.3	↗

◇ 向こう３ヶ月の見通し ◇





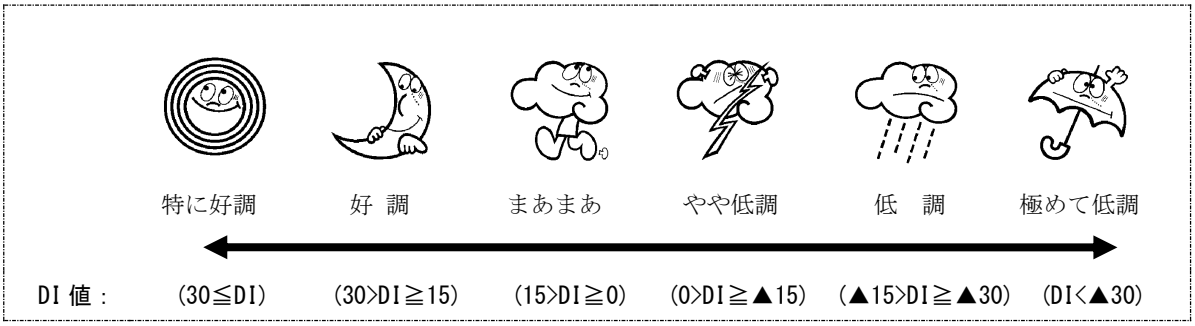
○平成28年1月～平成28年3月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ3.29ポイント増加し5.92%、「下降しそう」が5.92ポイント増加し13.16%となった。業種別の見通しDIは建設業（▲4.0）、製造業（▲15.8）、卸売業（▲21.4）、小売業（0.0）、飲食業（▲25.0）、サービス業（0.0）であった。

➡「上昇しそう」では、「首都圏物件が上昇しているため」「ゼロ県債工事発注、2月補正工事発注があるため」（建設業）、「少しずつ上昇しそうな動きがあるため」（製造業）、「店舗移転して5年目になるので周知されてきたと感じるため」「少しずつではあるが、客単価が上昇しているため」（小売業）、「マイナンバー用、受験用の写真が増えるため」「ディーラーの決算月が3月なので車両販売が伸びるため」「新しい年度に向けて、依頼が増加予定のため」「3ケ月程度の仕掛プロジェクトがあるため」（サービス業）といった声が寄せられた。

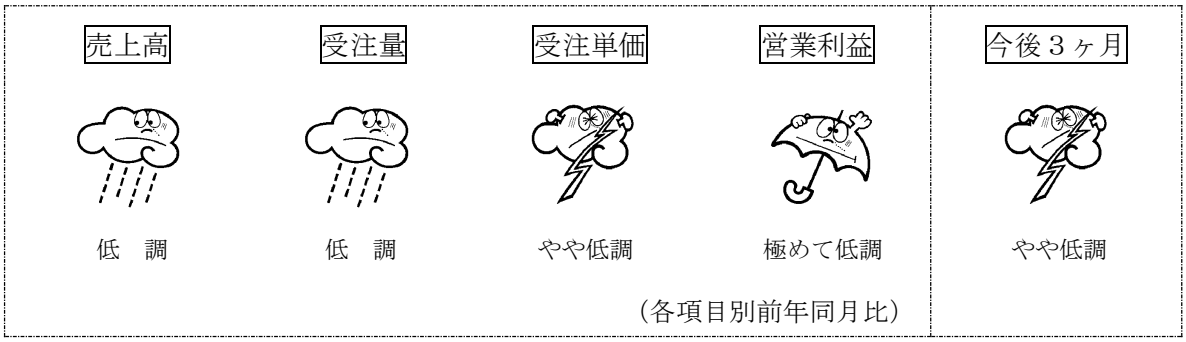
➡「下降しそう」では、「3ケ月はあまり仕事の引合が多くないため」「新規契約が未確定で、受注量が確保できていないため」「なかなか契約に結び付かないため」「公共事業の発注量の低迷、民間工事の受注減少のため」（建設業）、「雪不足、寒さ不足で個人消費の減少のため」「例年と同様に1月から3月は伸びる要素がないため」（製造業）、「荷動きが悪くなってきたため」「季節要因のため」（卸売業）、「消費者の買い控えがさらに続いているため」（小売業）、「一部企業と公務員以外は景気が良くないため」「1月中旬の後の2月、3月中頃までは期待出来ないため」「春休みまでは暇なシーズンのため」「予約制で管理しているが。1月は50%、2月、3月に関しては予約が読めないため」（飲食業）、「例年2月の売上が悪いため」「この業界は12月が大変忙しく、2月は数字が伸びないため」「冬期は例年、利用者が減少するため」「これから年度末になるので発注が見込めないため」「平成27年度求職者支援訓練コース数及び応募者減少のため」（サービス業）といった声が寄せられた。

業種別景況

＜ＤＩ君の景況判断＞



１．建設業



【項目別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売 上 高	▲ 17.7	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 6.2	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 30.4	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 4.0	▲ 20.9	▲ 16.0
受 注 量	▲ 47.0	▲ 43.8	▲ 31.2	▲ 18.8	▲ 15.0	▲ 12.0	▲ 20.8	▲ 34.8	▲ 36.0	▲ 54.2	▲ 16.0	▲ 29.2	▲ 28.0
受注単価	▲ 17.6	▲ 18.7	▲ 6.3	▲ 6.2	0.0	8.0	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 20.0	▲ 8.3	▲ 8.0
営業利益	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 39.2	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 36.0	▲ 20.8	▲ 32.0
見 通 し	▲ 5.9	▲ 6.3	6.2	6.3	▲ 5.0	4.0	▲ 8.3	8.7	0.0	▲ 12.5	▲ 8.0	▲ 16.7	▲ 4.0

＜経営者の目・見方・ｅｔｃ＞

電気工事	・業界全体的に仕事量が落ち込んでいるので、新年に期待したい。
総合建設	・昨年同期と比較したら受注高減少の企業が多い。また、暖冬による除雪や融雪が極端に少なく山間部の事業者が困っている。
管工事	・暖冬だが、着工現場が無いので1ケ月位空となっているため、新年度が心配である。
土木工事	・暖冬気象の影響で、手持ち工事の進捗状況が順調な状況である。年度末から４月、５月の繰越工事は殆どなく、国、県の大幅な補正予算に期待したい。
鉄工	・この先、鉄工関係は益々、受注量が多くなる。 ・地方の中小企業は先行きが不透明である。冬は特に動きが少ないので、何か

考えていけなければいけないと思う。

・中国経済の減速のせいなのか、スクラップが安くなり鋼材の価格も弱含みである。首都圏地方もこの冬場は一服という感じである。3月以降はまた非常に繁忙状態になりそうだが、あまり集中しすぎると対応が難しくなってしまうので、今から不安な状況である。

2．製造業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後３ヶ月
まあまあ	やや低調	低　調	やや低調	低　調

（各項目別前年同月比）

【項目別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売　上　高	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 13.0	▲ 25.0	5.0	0.0	▲ 13.7	15.0	0.0	8.3	▲ 40.0	35.0	0.0
受　注　量	▲ 19.0	▲ 35.0	▲ 17.4	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 5.0	▲ 17.4	4.2	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3
受注単価	▲ 23.8	▲ 20.0	▲ 21.7	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 17.4	▲ 31.8	▲ 20.0	▲ 17.4	▲ 8.4	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 21.1
営業利益	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 26.1	▲ 45.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 31.9	15.0	▲ 17.4	0.0	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3
見　通　し	0.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 20.0	5.0	8.7	0.0	▲ 5.0	▲ 17.4	▲ 4.2	▲ 10.0	5.0	▲ 15.8

＜経営者の目・見方・ｅｔｃ＞

豆腐	・12月は気温が高めで、動きが鈍かった。暑い季節は暑く、寒い季節は寒い方が、商品は売れる。
菓子	・正月需要のための年末注文が年々減少してきている。暖冬で卵の価格が高騰しなくて助かった。原油価格の下落で、この他一次産品も値下がるかもしれない。 ・暖冬の影響で、スキー場のお土産製品の受注が悪い。
金属塗装	・中国の景気動向、円相場の動向が心配である。
漬物・味噌	・天候の異変で漬物用の野菜の収量、単価が不安定で生産に大変苦慮した。

３．卸売業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後３ヶ月
低　調	低　調	低　調	やや低調	低　調

（各項目別前年同月比）

【項目別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売　上　高	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 26.7	0.0	▲ 25.0	▲ 18.8	▲ 11.7	▲ 11.8	5.9	▲ 6.6	▲ 18.7	▲ 21.5
販 売 客 数	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 13.3	▲ 25.0	▲ 28.6
販売客単価	▲ 18.8	▲ 18.7	▲ 12.5	0.0	18.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 6.6	▲ 25.0	▲ 21.5
営 業 利 益	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.3	5.8	▲ 11.8	17.6	0.0	0.0	▲ 14.3
見　通　し	▲ 12.5	0.0	0.0	▲ 20.0	6.3	0.0	▲ 6.3	0.0	11.8	5.9	6.7	▲ 12.5	▲ 21.4

＜経営者の目・見方・ｅｔｃ＞

自転車	・自転車は電動自転車が売れる。この動きで行くと3月には欠品が出る。
包装資材	・小売業者の廃業や閉店が目立ち、大型店に圧倒された感じがある。
青果	・暖冬の影響により出荷物が予定より早まり、売れるべき商品が売れず、年末特需の商品が売れなかった。また、鍋商材の販売には苦慮した。スキー場も雪不足による営業の遅れがあったため、人と商品の動きが無く苦い展開となった。
金属製品	・地元の製造業者、加工業者は1～2ケ月の工期遅れがあり、谷間の状況である。この状況は2月まで続くと思う。
土産品	・年末年始の天候に恵まれ、商品の動きが上昇傾向だったが、業界全体は厳しい状況である。
機械工具	・良くもなく悪くもない状況が続き、勢いが感じられない。

4．小売業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後３ヶ月
やや低調	やや低調	低　調	やや低調	まあまあ

（各項目別前年同月比）

【項目別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売　上　高	▲ 50.0	▲ 48.3	▲ 11.5	▲ 16.6	▲ 21.2	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 15.1	▲ 18.1	▲ 25.0	▲ 12.5
販 売 客 数	▲ 37.5	▲ 41.4	▲ 30.8	▲ 40.0	▲ 12.1	▲ 5.7	▲ 24.3	▲ 10.3	▲ 30.6	▲ 27.2	▲ 18.2	▲ 11.2	▲ 9.4
販売客単価	▲ 20.8	▲ 31.1	3.8	▲ 13.3	▲ 6.0	▲ 2.9	▲ 16.2	▲ 12.8	▲ 22.2	▲ 12.1	▲ 27.2	▲ 22.2	▲ 15.7
営 業 利 益	▲ 41.7	▲ 34.5	▲ 19.3	▲ 30.0	▲ 39.4	▲ 17.1	▲ 29.7	▲ 20.5	▲ 19.4	▲ 24.2	▲ 42.4	▲ 30.6	▲ 9.4
見　通　し	▲ 8.3	6.9	3.9	6.7	6.1	2.9	2.7	▲ 7.7	2.7	0.0	▲ 15.2	▲ 2.8	0.0

＜経営者の目・見方・ｅｔｃ＞

住宅機器	・12月は、とても忙しかった。
パン	・X’mas、年末とお客様のニーズに応える事が出来たので、満足のいく月だった。飲食関係は人材不足の声が聞かれるが、雇用する側、される側が噛み合っていないので厳しい状態である。
陶磁器	・穏やかな天候の日が多く、歳末商戦は客数、売上共に昨年を大きく上回った。本町通りに空き地が出現してから半年経つが、おかげさまで通りの賑わいが減少した感じが無く、完成が待たれる。
印章	・前半は順調だったが、後半は厳しかった。パソコンやプリンターが普及した為、年賀用ゴム印や年賀状印刷の受注が年々極端に減少している。 ・街の中を歩く外国人観光客が随分減少した。松本城に立ち寄るだけの観光ツアーが主流になりつつあるのかもしれない。雪が少なく寒さも穏やかだった。
菓子	・観光客が上旬は前年より多かったが、年末は慌ただしくなかった。経済は上向きと言うが、商店にとっては厳しい時が続く。
書籍	・周囲の多くの業種で、一段と厳しくなったと話を聞く。年末になっても以前のように売上は上がらない。物価の上昇に可処分所得が追い付いていけないという統計があるが、状況の好転を期待すると共に、工夫と努力で乗り切りたい。
書籍・木のおもちゃ	・日書連では、出版物への軽減税率適用が先送りされた。適用を勝ちとる運動を続けていく事にした。個人消費が上昇しないので、当分は厳しい商戦が続いていく。
生鮮食品	・暖かな日が続いたので、近年の経営数値と比較すると良い結果であった。
ショッピングセンター	・暖冬により衣料品の売上が厳しかったが、宝飾、身の回りのギフト需要が順調に推移した事でカバーができた。長野エリアの開発から1年が経過し、影響が沈静化しつつある。

5．飲食業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後３ヶ月
やや低調	やや低調	低　調	低　調	低　調

（各項目別前年同月比）

【項目別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売　上　高	0.0	▲ 22.2	27.3	8.3	▲ 8.4	6.7	▲ 7.1	▲ 12.5	▲ 11.1	0.0	7.2	▲ 28.6	▲ 6.2
販 売 客 数	0.0	▲ 11.1	36.4	8.3	0.0	6.7	▲ 7.1	▲ 6.2	0.0	0.0	0.0	▲ 28.6	▲ 12.5
販売客単価	▲ 18.2	▲ 11.1	▲ 9.1	▲ 8.4	▲ 16.7	▲ 13.3	▲ 21.4	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 5.9	▲ 7.1	▲ 28.6	▲ 18.7
営 業 利 益	▲ 36.4	▲ 33.3	27.3	0.0	▲ 16.7	▲ 6.7	▲ 7.1	▲ 31.2	▲ 11.1	▲ 11.8	0.0	▲ 28.6	▲ 25.0
見　通　し	▲ 27.3	0.0	36.4	16.7	16.7	▲ 6.6	14.3	12.5	▲ 22.2	5.9	0.0	▲ 7.2	▲ 25.0

＜経営者の目・見方・ｅｔｃ＞

寿し	・12月の前半はあまり良くなかったが、後半大みそかの売上は良かった。 ・1年間を振り返ってみると、雰囲気的には景気が少しずつ良くなって来た様な感じがする。同業者に意見を聞いてみると「あまりパットしないが、どん底の時から見れば少しずつ上向きになってきている」と言う声が多かった。平成28年が景気の良い年になる事を願う。 ・年々忘年会の開始時期が遅くなり、また大人数の宴会も依然としてご予約頂けるが、他方では少ない人数の宴会が増えてきているのが近年の傾向である。また、特に今年は蟹をはじめとした一部の年末年始向け食材の高騰が目立った。
レストラン	・インターネットの時代になると、いい加減なメニューは削除しないと評価が下がる傾向にある。
中華料理	・幹事さんの仮予約のため、大人数の宴会がキャンセルとなった。クリスマス前の平日は、宴会以外のお客様の動きが鈍かったが、高いコース料理が例年より増えた。
そば	・今年の12月はガソリンの価格が安くなり遠出しやすい環境なのに、例年になく観光客が少なく感じた。団体の忘年会の予約も年々少なくなり、静かな12月だった。冬の松本観光の集客UPに繋がる対策があればよいと思う。
創作料理	・材料費の値上がり、肉、魚特に野菜は高騰し、12月は苦しんだ。そのため、客数は増加したが、利益の大幅増加までには至らなかった。12月で8年目に突入したが、リピーターに支えられているので、単価を上げられず悩んでいる。
郷土料理	・静かな月であったが、例年の忘年会の申込に助けられた。不況感を実感する1年

	であった。
仕出し料理	・全般的には良くなかったが、年末の注文は、毎年お得意様が必ず注文してくれるので、大切にしていかなければいけないと感じた。
料理	・忘年会の減少、原材料の高騰が追い打ちをかけ、師走の雰囲気が無いまま終わった。

6．サービス業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後３ヶ月
まあまあ	まあまあ	まあまあ	やや低調	まあまあ

（各項目別前年同月比）

【項目別DIの推移】

	26年12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 24.3	▲ 19.5	▲ 5.7	5.0	14.7	0.0	▲ 10.6	10.0	▲ 20.4	2.2	13.1	▲ 9.5	4.3
販売客数	▲ 21.6	▲ 25.0	▲ 11.4	▲ 2.5	12.2	2.1	▲ 14.9	4.0	▲ 25.0	0.0	8.7	▲ 9.5	2.1
販売客単価	▲ 5.4	▲ 11.1	▲ 11.4	▲ 2.5	4.9	0.0	▲ 4.2	▲ 2.0	▲ 18.2	6.8	8.7	▲ 4.7	4.3
営業利益	▲ 29.7	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 10.0	14.6	▲ 6.1	▲ 17.1	0.0	▲ 18.1	▲ 13.7	8.7	▲ 9.5	▲ 4.3
見通し	0.0	2.7	14.2	0.0	2.5	▲ 2.0	0.0	10.0	9.1	6.9	2.2	0.0	0.0

＜経営者の目・見方・ｅｔｃ＞

介護サービス	・「老人福祉介護事業」の負債1，000万円以上の倒産は、前年比40．7％増の76件（2015年1月～12月東京商工リサーチ1月13日発表）であった。施設系デイサービスを含む通所とショートステイ事業が、前年比93．3％増の29件あり、介護崩壊を如実に示していると報じた。他人事と思えなく、気になるところである。
学習教室	・12月は冬期講習があり収入としてはプラスとなった。しかし、春期、夏期と少し異なり講習会によって新規生徒の獲得という事にはなかなかつながらない。
ﾎｰﾑｸﾘｰﾆﾝｸﾞ･ﾘﾈﾝｻﾌﾟﾗｲ業	・12月下旬より雪不足によるスキー客の減少が、宿泊者減少につながっている。1月も引き続き厳しい状況である。
温泉旅館	・ISによる世界に広がるテロ行為、株安、円高、人民元安、原油安、どれをとっても世界経済にとってよくない傾向である。約1年間好調だった業績もここに来て苦戦しているので、全力でこの苦難をのりきりたい。
	・全般的に悪化傾向で、先行き不透明である。
ホテル	・忘年会が増えたので売上げがアップしたが、宿泊は昨年同様だった。
写真	・マイナンバー用証明写真、大学受験用証明写真が大幅に伸びたので、ありがた

	い事である。
獣医	・高齢猫には、慢性腎臓病と言って、腎機能が低下していく病気がある。通常10才位から発症し検査によって判明するが、ほっておくと症状が現れてきた時には病期がかなり進行しているケースが多い。人間は血液透析が行われるが、猫用の器械はあるが一般的ではない。早期に発見して薬物内科療法をすすめる。現状の景気は良くないので、今後に期待したい。
ソフトウエア	・自社の基盤刷新に関わるシステム再構築の引き合いが多くなっている。自社を取り巻く外的要因だけでなく、システムの構築手法に関わる流れもこれまで以上に速いので、優先度付された要因の策定とコンパクトなシステムリリースに留意すべきである。
ビル・住宅総合メンテナンス	・暖冬で雪が少ないのは有難いが、寒さと雪の必要な業種には気の毒である。少しずつ、この影響が我々の業種にも影響してくる。世界情勢と天候が不安定なので何か起きなければ良いが、先行きの見通しに不安材料が多い。
マッサージ	・暖冬の影響で、来客数が多かった。
機械設計	・地元の大手企業は仕事量が多く忙しい状況である。今期末までは仕事が入っているが、来期はこれからなので、まだ決まっていない。
マナー講師	・年末は依頼件数が毎年減少している。
自動車整備・板金塗装	・年末まで多忙な日々が続いた。本年は全体的には平均して仕事があった。中国経済が低迷しているが、今後に期待していきたい。
タクシー	・忘年会の月であったが、客数は前年より減少し売上高は少なかった。
理容・美容	・毎年12月は売上が上昇する月だが、今年の12月も全般的によかった。 ・例年より寒さも雪もない過ごしやすい12月だったので客足には影響がなかったが、シャンプーなど商品の売れゆきが思ったより伸びなやんだ。
ペットサービス	・来客数は前年を下回ったが、プレミアムフードの売上が伸びたので顧客単価が上がり売上高は前年並みだった。